

2017年 7月 20日

鹿児島大学病院 眼科 で

裂孔原性網膜剝離の治療を受けた患者さんへ

(医学系研究に関する情報)

鹿児島大学病院眼科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

日本網膜硝子体学会（Japanese Retina and Vitreous Society）
における網膜硝子体手術・治療情報データベース事業

【研究機関】

鹿児島大学病院 感覚器センター 眼科

【研究責任者】

鹿児島大学病院 感覚器センター 眼科

教授 坂本泰二

【研究の目的】

裂孔原性網膜剝離について：眼球をカメラに例えると、網膜はフィルムに当たるものです。角膜・水晶体から入った光がフィルムに相当する網膜に当たると網膜はそれを電気信号に変えて、脳に刺激を伝える結果、ものが見えるということになります。網膜剝離は網膜が眼球壁側から剝離したことを指し、治療法、経過はその原因により異なります。

裂孔原性網膜剥離とは、網膜に孔（網膜裂孔・網膜円孔）が開いてしまい、目の中にある水（液化硝子体）がその孔を通過して網膜の下に入り込むことで発生します。一般に、はじめのうちは剥離した網膜の範囲は小さく、時間とともにだんだんこの範囲が拡大しますが、孔が大きいと一気に進みます。剥離が進行すればすべての網膜が剥がれてしまいます。剥がれた網膜は光の刺激を脳に伝えることができません。また、剥がれた網膜には栄養が十分行き渡らなくなるため、網膜の働きが低下してしまいます。

網膜剥離が発生してしまった場合、多くは手術が必要となります。網膜剥離は治療せずに放置した場合、失明する可能性の高い病気です。

手術は大きく分けて二つの方法があります。

一つは目の外から網膜裂孔に相当する部分にあて物を当てて、さらに孔の周りに熱凝固などを行って剥離した網膜を剥がれにくくするやり方です。剥がれた網膜を目の中から押さえつけるために、眼内に空気や特殊なガスを注入することがあり、この場合は手術後にうつぶせなどの安静が必要です。

もう一つの方法は、目の中に手術器具を入れ、目の中から網膜剥離を治療する硝子体手術という方法です。この方法では、剥がれた網膜を押さえるために、ほぼ全例で目の中に空気や特殊なガスやシリコンオイルを入れます。この方法においても手術後に体位制限が必要となります。

手術療法によって多くの網膜剥離は復位させることができますが、一度の手術で網膜が復位しないために、複数回の手術を必要とすることもあります。また、重症例は増殖性硝子体網膜症と呼ばれ、最大限に手を尽くしても、残念ながら失明してしまう場合もあります。網膜剥離の重症度にもよりますが、手術療法では1回の手術につき、1～3週間の入院を要することが一般的です。視力回復の程度や日常生活までの時期に関しては個々のケースで異なります。

裂孔原性網膜剥離がどのくらいの割合で起こっているのか、あるいは原因やタイプの違いといった、様々な条件の違いが治療成績にどのような影響を与えているのかということに関しては施設ごとの小規模の症例報告などがもとな

っていることが多く、詳細な解析はなされてきませんでした。全国の網膜硝子体手術施設で症例を登録して、大規模に調査することによって多くの項目についてより詳細にその関連を調査することができるようになります。裂孔原性網膜剝離は、初回復位率（成功率）が90%以上とされていますが、登録された患者さんの網膜剝離の状況を調べることで、現在の我が国における網膜剝離の傾向や原因、手術を行った場合の経過を調べ、将来的には期待できる治療効果を予測するなどの応用が可能です。このような登録事業により手術侵襲を低減し、成績を改善しうる新しい知見が得られる可能性があります。

【研究の方法】

この研究は、通常の治療を行った後、どのような経過をたどるかについて、全国の多くの患者さんの結果を集めて比較検討するというものです。ですから患者さんが研究に参加することで、影響を受けることはありません。

【ご協力をお願いする期間】 通常手術後6ヶ月間は大学で診察し、その後2年間の状況を記録して調べます。

【対象となる患者さん】

研究の承認日から2017年7月31日までに、鹿児島大学病院眼科で裂孔原性網膜剝離と診断され、治療を受けた患者さんを対象にしています。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

手術症例の基本項目（初診時年齢、性別）

病気に関する情報

手術に関する情報

治療後の経過に関する情報（医療評価調査）など

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しま

せん。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、日本網膜硝子体学会が主体で行います。企業等の第三者機関からこの研究のための資金提供や労務提供は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 感覚器センター 眼科

教授 坂本泰二

電話 099-275-5402 FAX 099-265-4894